

1 学校教育目標	
教育目標	生徒一人ひとりの能力と人間性・社会性を高め、より良い社会の実現に向けて貢献できる人材を育成する。
めざす学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの状況に応じた的確な支援をする学校 ・生徒や教職員が生き生きと活動する活力ある学校 ・地域の信頼に応え、地域に愛される、開かれた学校
教育方針	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性の育成と個性の伸長 ・基礎学力の充実と自主的な学習習慣の育成 ・自主的・主体的な実践力とコミュニケーション能力の育成 ・体験を踏まえた社会観・自然観・勤労観の育成と夢の実現の支援

2 平成31年度に重点を置いて目指す目標・具体的方策	
学習指導	生徒の主体的な学習態度の育成と授業改善の実施
生徒指導	生徒の主体的な活動による豊かな心、思いやりの心、協調性の育成
進路指導	個々の能力に応じた進路について自己決定できる力の育成
健康安全	健康な生活習慣を基盤とし、個々の状態に応じた健康安全管理能力の育成
人権教育	学び合う中で、互いを認め尊重する心といじめをゆるさない態度の育成
図書教育	生徒の意欲的な読書活動の推進
特別活動	自主的・主体的な実践力とコミュニケーション能力の育成
情報発信	適時・的確な情報発信の充実
業務改善	将来を展望した業務の整理・統合・改廃による校務の縮減

3 自己評価					
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
学習指導	生徒の主体的な学習態度の育成と授業改善の実施	授業のはじめに目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるよう共通理解を図る	4. 75%の授業時間で目標提示と振り返り活動を行うことが出来た。 3. 50%の授業時間で目標提示と振り返り活動を行うことが出来た。 2. 25%の授業時間で目標提示と振り返り活動を行うことが出来た。 1. 目標提示と振り返り活動が出来なかった。	3	具体的方策についての共通理解は図られ、教科の特性に合わせITC機器の利用等、多くの教科で、目標提示・振り返り活動を効果的に行い授業改善等に活用できた。 引き続きこの活動が生徒の自学自習等主体的な学習態度の育成や意欲の向上に繋がるよう研究していく必要がある。
生徒指導	生徒の主体的な活動による豊かな心、思いやりの心、協調性の育成	学校行事・特別活動・地域活動への積極的参加により豊かな心、協調性、コミュニケーション能力の育成を図る。	4. 生徒全員が意欲的に取り組んだ。 3. 8割程度の生徒が意欲的に取り組んだ。 2. 半数程度の生徒が意欲的に取り組んだ。 1. ほとんどの生徒が意欲的に取り組めなかった。	3	概ね、全ての活動に積極的に取り組むことができた。協調性も養え、コミュニケーション能力の向上を目指す生徒も増えた。
進路指導	個々の能力に応じた進路について自己決定できる力の育成	進路説明会を充実させ、早期の進路決定を実現させる。	4. 進路説明会を中心に、全員の生徒が、目指す進路先を明確にできた。 3. 進路説明会を中心に、約8割の生徒が、目指す進路先を明確にできた。 2. 進路説明会を中心に、5割の生徒が、目指す進路先を明確にできた。 1. 進路説明会が十分でなく、1割程度の生徒しか、進路先を明確にできなかった。	3	3年生の個々が進路先は明確にできたが全員実現にまでは至らなかった。1・2年生は幅広いアンケート結果を基に、それぞれ進路先の決定へ向かっている。 就職者の面接指導の時期や進路説明会の回数などの検討すべき課題に前向きに取り組みたい。
健康安全	健康な生活習慣を基盤とし、個々の状態に応じた健康安全管理能力の育成	心身ともに健康な生活について考え、気づきをもとに実践していこうとする態度を身につけさせる。	4. 生活習慣について振り返らせ、実践できることに週に3～4回は取り組ませた。 3. 生活習慣について振り返らせ、実践できることに週に1～2回程度取り組ませた。 2. 生活習慣について振り返らせたが、実践に取り組ませることができなかった。 1. 生活習慣について振り返らせることができなかった。	3	寝不足や欠食・偏食等について改善に向けて取り組む生徒も見られたが、生活習慣の根本的な改善には至らなかった。 授業以外の場面でも自主的に運動に取り組み、体力向上や体づくりに意欲を示す生徒が見られた。
人権教育	学び合う中で、互いを認め尊重する心と、いじめを許さない態度の育成	SHR・授業等で生徒が互いに学び合い、認め合う場を設定し、いじめのない人間関係づくりに努める。	4. 互いに認め合う態度が顕著で、いじめ防止等にも十分な効果があった。 3. 互いに認め合う態度がみられ、いじめ防止等にも効果があった。 2. 互いに認め合う場を設定したが、互いを認め合うところまでいかなかった。 1. 互いを認め合う場を設定できなかった。	3	外部講師による講演を聴き、自分自身の行動を振り返ったり、人との関わり方で大切なことに気づくことができるなど、互いを認め、尊重する態度が育ちつつある。 生活アンケートでは、対人適応感が向上している生徒が多いが、不安感を持っている生徒については、教員で情報を共有し、安心できる環境作りを考えた。
図書教育	生徒の意欲的な読書活動の推進	定期的に図書を購入する。また新着図書の情報を発信して、学校図書館の利用を促進する。	4. 9割以上の生徒が、図書館を利用し、本を借りた。 3. 7割程度の生徒が、図書館を利用し、本を借りた。 2. 半数程度の生徒が、図書館を利用し、本を借りた。 1. 図書館を利用し、本を借りた生徒が3割未満だった。	2	図書の受け入れや情報発信などは十分に行うことができていない状況である。 昼休みの開館時は、2、3年生を中心に半数程度の利用者がいる。利用者は読書をしたり、談話をするなどして過ごしている。3年生は進路に関する本を借りる生徒もあり、一定の役割は果たせたと考える。
特別活動	生徒が自主的・主体的な活動を通して、感動や成長を実感できる特別活動の推進	生徒が企画運営に自主的・主体的・積極的に参加できる学校行事や部活動を実施する。	4. 生徒全員が意欲的に活動に取り組み成果をあげた。 3. 8割程度の生徒が意欲的に活動に取り組み成果をあげた。 2. 半数程度の生徒が意欲的に活動に取り組み成果をあげた。 1. ほとんどの生徒が意欲的に取り組めなかった。	3	生徒会企画の行事、体育的行事など、生徒はみな意欲的に活動できた。 自己表現が苦手な生徒も、他の生徒は教員の声かけ等により、自分を出しつつある。

4 学校関係者評価	
学校関係者からの意見・要望等	評価
少人数の中で、英・数はさらに分割して指導されているのはよい。マンツーマンでの指導に近くて、生徒は助かっている。	A
地域活動に積極的に参加している。 ○生徒自らが企画して関わられるようになると、さらに良い。	A
情報提供に努め、生徒の意欲を引き出してほしい。 県外に出て、将来山口県に戻ってくるような生徒の育成に努めてほしい。 就職希望者に対する指導（面接等）を充実させてほしい。	A
生徒の健康管理について、保護者と連携をとりながら御指導いただきたい。 管理栄養士による栄養指導等も導入したらどうか。	A
いじめのない教育環境をこれからも維持していただきたい。	A
蔵書が十分でないならば、鹿野図書館との連携を検討してはどうか。	B
少人数であるが、意欲的な取り組みがなされている。 少人数のため、行事等において各人の責任が重く、自主性が育っている。さらに生徒を信じて活動させてもいいのではないか。	A

情報発信	適時・的確な情報発信の充実	HPを中心として、各種行事だけでなく、授業の様子や部活動結果なども含め積極的に情報発信を行う。	4. 2週間に1度の頻度でHPを更新し、学校の様子を積極的に発信した。 3. 3週間に1度の頻度でHPを更新し、学校の様子を発信した。 2. 4ヶ月に1度の頻度でHPを更新した。 1. HPの更新があまり行えなかった。	3	行事や総合的な学習・探究の時間の活動など、生徒の活動を幅広く情報提供を行い、できる限りの頻度でHPの更新に努めた。	HPの内容は大変充実しており、更新もよくされている。どのくらい閲覧されているか、知りたい。	A
業務改善	将来を展望した業務の整理・統合・改廃による校務の縮減	募集停止による教職員の縮減が見込まれる中で教育活動を保証できるよう、教育課程・学校組織・校務・部活動の見直しを進め、学校運営のスリム化と教職員の協働体制を促進する。	4. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が80%以上いた。 3. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が60%以上いた。 2. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が40%～60%いた。 1. 学校アンケートで、業務改善の効果を実感した教員が40%以下で	3	県の目標である時間外業務3割削減を達成した。 アンケートにおいて、勤務環境・勤務実態・学校運営に関する満足度は昨年と比してさらに高くなっており(90 94, 100 100, 100 100)、業務改善の成果が表れていると考えられる。	部活を民間ボランティアに託すことはできないか。 学校周辺の環境整備が大変よく行われている。	A

5 学校評価総括（取組の成果と課題）

学習指導	教科の特性に合わせ、ICT機器を活用することや目標提示・振り返り活動を効果的に行うことによって授業改善を進めることができた。今後、生徒の自学自習等主体的な学習態度の育成や意欲の向上に繋がるよう継続的に取り組む必要がある。
生徒指導	学校生活の多くの場面で、思いやりや協調性が見られ、コミュニケーションを図ろうとする態度も芽生えてきた。今後、さらなるコミュニケーション能力の向上・育成に取り組む必要がある。
進路指導	事後アンケート等により進路説明会の内容を検討し、充実に努めることができた。アンケートを通じて就職希望者への面接指導のあり方など検討すべき課題も明らかになった。
健康安全	個々の健康課題に対して主体的に取り組む、運動に親しむ態度を育成することができた。しかし、慢性的な寝不足や欠食・偏食の根本的な改善には至っていない。家庭との連携を深めることや専門家による栄養指導も視野に入れ、具体策を提示していく必要がある。
人権教育	研修や行事を通して、互いを認め、尊重し合い、いじめのない学校生活を送ることができている。引き続き、不安感を持つ少数の生徒にしっかり目を向け、安心して学校生活が送れるように支援をしていく必要がある。
図書教育	図書館に来館する生徒は多く、居場所としての図書館という役割は果たせた一方、本を借りる生徒はごくわずかという現状である。生徒の希望に添った図書を図書館に配置することと、望ましい読書の推進に向けた取り組みが今後の課題である。
特別活動	概ね全ての生徒が行事に意欲的に取り組んでいるが、教員による支援が必要不可欠で、生徒自らの主体性・計画性が弱い。今後、生徒自らが企画・実施できるよう導く必要がある。
情報発信	インターネット等を通じ、行事・生徒活動また研究成果等幅広く情報発信を行っている。今後も継続していく必要がある。
業務改善	時間外業務はH28年度の33.8時間から20.3時間（11月現在）と13.5時間の減で-46.9%となり、-30%という県の目標を達成することができた。今後、募集停止等に伴う教員定数の削減およびそれに伴う一人当たりの業務量の増大が予想されるが、過度の負担や時間外業務の増大につながらないようにする必要がある。

6 次年度への改善策

学習指導	授業改善に努め、家庭学習等生徒の主体的な学習態度・意識向上に努める。
生徒指導	昨年同様、コミュニケーション能力の育成に努める。（特に自分の意見や考えを人に伝える能力を養う）
進路指導	面接指導のあり方や進路説明会の回数を含めたあり方を再度検討したい。
健康安全	主体的に自身の健康課題を見つめ直させ、改善への具体策を指導する。
人権教育	円滑な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法等を指導し、全校生徒が安心して学校生活が送れるように努める。
図書教育	図書教育を推進するための協力体制を見直す。
特別活動	生徒が自主的に活動できる環境づくりを目指す。
情報発信	学校行事や生徒の学校生活等より幅広い情報発信に努める。
業務改善	時間外業務が増えないように引き続き業務の整理を行う。